

各地の導入医療機関情報など、旬の情報をお知らせする情報誌

医療費あと払い News Letter

「医療費あと払いサービス」最新情報をまとめてお届けします！

2026年9月号

9月の導入医療機関様・薬局様のご紹介

訪問診療にて、 当社「医療費あと払い」サービス導入！

沖縄県南城市にある「南城内科」様は、訪問診療で「医療費あと払い」サービスを導入いただきました。今年8月に開院したばかりのクリニック様で、対象となる患者様はまだ多くはありませんが、自己負担金回収の効率化を考え、開院とほぼ同時に当社の「医療費あと払い」サービスを採用していただきました。

また、これまで他の口座振替サービスをご利用されていた医療機関様が、当社の「医療費あと払い」サービスに変更された事例も多数あります。

薬局では1店舗で新規導入、2店舗が追加導入！

薬局部門でも新たに「医療費あと払い」サービスが開始となります。

株式会社コペン様から「駅前すみれ薬局」が新規に、株式会社スギ薬局様から「阪神調剤薬局草津矢橋店」が、株式会社ジェムス様から「ドリームファーマシー」が追加で導入となりました。

当社の「医療費あと払い」サービスは、サービス導入後の満足度が非常に高く、既存店舗の実績を評価いただき多店舗展開（追加導入）へと至るケースが多いのも大きな特徴です。

調剤薬局様でのご利用が4,000軒を超えました 主に訪問調剤で「医療費あと払い」サービスをご利用いただいております

<訪問調剤の自己負担金回収で口座振替サービスをご検討中の薬局様へ>

在宅患者さんの自己負担金回収について、現金回収や未収対応でお困りではないでしょうか。多くの薬局様が、まずは口座振替サービスの導入を検討されますが、初期費用、ランニングコストだけで判断すると、本来得られるはずの効果を十分に発揮できない場合があります。特に、以下の点は見落とされがちです。

①口座振替依頼書の不備対応

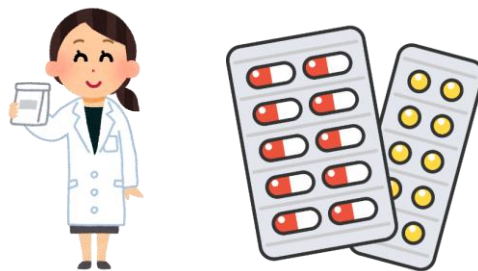
- * 患者さん・ご家族への再記入依頼の手間
- * 郵送対応が必要な場合の事務作業、発送コスト

②対象患者さんの登録作業の手間

③毎月の請求作業の操作性・振替結果確認などの機能性

④未収時の督促対応

- * 患者さん・ご家族への案内の手間
- * 郵送対応が必要な場合の事務作業、発送コスト



これらの業務にかかる 人的コスト・時間的コスト を含めて総合的に検討しないと、口座振替サービスの導入効果を最大化することはできません。在宅患者数は、運用を続けるほど増加していく傾向があります。導入当初は小さな負担でも、患者数が増えるにつれ、これらの手間は確実に大きな負担となります。そのため、サービス導入にあたっては 目先の費用だけでなく、1年後・2年後の運用負荷まで見据えた検討が重要です。

「医療費あと払い」サービスは、現在 4,000を超える薬局様にご導入いただいております。在宅業務の負担軽減と未収リスクの抑制に大きく寄与するサービスですので、ぜひこの機会にご検討ください。

お問合せ・資料請求は
こちらまで

Tel : 03-3237-3039

平日 午前9時～午後6時まで

医療費あと払い で検索

株式会社メディカルファイナンステクノロジーズ

New ! 8月の新規導入医療機関

クリニック 南城内科（沖縄）

薬局 ドリームファーマシー様（神奈川県）

駅前すみれ薬局様（滋賀県）

阪神調剤薬局草津矢橋店様（滋賀県）



導入医療機関インタビュー【調剤薬局】

東京在宅薬局株式会社 様（東京都）



《調剤薬局様のご紹介》

東京23区を中心に、個人宅で療養されている1,000名以上の患者さんを支援している調剤薬局様です。24時間365日の相談・緊急対応や無菌調剤にも対応し、患者さんが住み慣れた地域で療養生活を続けられる体制づくりに取り組まれています。ICT面では、店舗が異なっても必要な患者情報を確認できる環境を整え、訪問状況や申し送り事項、対応の進捗などを店舗・職種を越えて共有できるようにするなど、担当者個人の記憶や経験だけに依存せず、組織として患者さんを支えられる仕組みづくりを進められています。

《「医療費あと払い」サービスの導入を決められた経緯を教えてください》

当社は、外来調剤に加えて、東京23区を中心に個人宅への訪問薬剤管理を行っています。在宅医療では、患者さんご本人だけでなく、ご家族が薬代を管理されているケースも多くあります。そのため、訪問時に現金を用意していただくことや、ご家族の在宅時間に合わせて集金することが、患者さん・ご家族双方の負担になることがありました。また、薬局側にも、訪問先での現金の受け渡し、釣銭の準備、集金状況の確認といった業務が発生します。在宅患者さんの増加に伴い、支払いに関する業務をできるだけ簡素化し、本来の服薬支援や多職種との連携に時間を使える体制をつくりたいと考え、「医療費あと払い」サービスを導入しました。

《導入前と導入後で、どのような変化がありましたか？》

薬のお届けと支払いのタイミングを分けられるようになったことで、患者さんやご家族の都合に合わせた対応がしやすくなりました。薬局側でも、訪問時の現金授受や釣銭の準備、集金に関する確認作業を減らすことができ、支払いに関する業務を整理しやすくなっています。特に当社のように多数の在宅患者さんへ訪問している薬局では、患者さん一人ひとりの小さな負担を減らすことが、薬局全体の業務効率化にもつながります。訪問時に支払いのことだけでなく、薬の効果や副作用、服薬状況、生活上の困りごとなどの確認に、より意識を向けられるようになったことも変化の一つです。

《その他、貴局としての取組があれば教えてください》

在宅医療の現場を運営する中で、在宅医療に取り組みたいと考えていても、薬局によっては、在宅業務のノウハウ、人材の確保、業務設計、夜間対応などが大きな負担となり、参入や継続が難しいという課題があることが分かりました。この課題を解決するために設立したのが、「マカセテ在宅株式会社」です。マカセテ在宅では、東京在宅薬局が個人在宅1,000名以上を受け入れてきた実務経験を生かし、薬局が無理なく在宅医療に取り組み、継続できる環境をつくることを目指しています。

具体的には、次のような事業を進めています。

- ・在宅医療を始める薬局に対する、導入・運用支援
- ・患者さんを受け入れるための業務フローや役割分担の整備
- ・在宅医療に関する算定、実績管理、進捗管理の支援
- ・夜間の電話対応、調剤、配薬、翌朝の申し送りなどを薬局間で支える夜間連携体制の構築
- ・患者情報や申し送り、対応状況を共有するための在宅支援システムの開発・運用

一部の大規模な薬局だけでなく、地域の薬局がそれぞれの強みを生かしながら在宅医療に参加できれば、患者さんが住み慣れた地域で医療を受け続けるための選択肢を増やすことができます。「医療費あと払い」サービスによって支払いに関する負担を軽減することと、マカセテ在宅によって薬局の運営上の負担を軽減することには、共通する考え方があります。それは、医療そのものの以外の負担や障壁を仕組みによって取り除き、患者さんと医療従事者の双方が、安心して在宅医療を続けられる環境をつくることです。今後も、ICTと薬局間の連携を活用しながら、地域全体で患者さんを支えられる在宅医療の仕組みづくりに取り組んでまいります。



東京在宅薬局株式会社 代表 田中 平

お問い合わせはこちらまで



株式会社メディカルファイナンステクノロジーズ

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-3 PMO平河町6階



03-3237-3039



医療費あと払い

検索

<https://mdcom.jp/>